

ラグビーとノーサイドの精神

ラグビーのワールドカップが今年、日本で開催されるのを皆さんご存じでしょうか。9月20日～11月2日、日本各地12の会場で参加20チームにより全48試合が予定されています。残念ながら北陸での試合はありませんが、開催期間が長く、大きな経済効果が期待できるため、当地でも観戦客を呼び込むための取り組みが加速しています。

実は私自身も10歳の時にラグビーを始め、現在でも細々と現役を続けているラグラーであり、当地では小学生にラグビーを教えています。そんなこともあり、今回は、ラグビーについて少し書きたいと思います。

まず、最初に誤解がないように申し上げたいのですが、私自身、様々なスポーツが好きです。それぞれのスポーツにはそれぞれの良さがあり、ラグビーだけが優れたスポーツだとは全く思っていません。ただ、ラグビーが他のスポーツと違うところは何か、と聞かれば、躊躇なく「ノーサイド (no side)」の精神だと答えます。

ラグビーでは、試合の終了を「ゲームオーバー (game over)」とは言わず、ノーサイドと言います。試合を観戦された経験のある方ならお分かりだと思いますが、試合が終わると、お互いのチームのキャプテンは相手チームに健闘を讃えるエールを送り、その後、試合に参加した全てのプレーヤーがお互いに握手をします。

さらに、秩父宮ラグビー場のような専用のラグビー場には、アフター・マッチ・ファンクションルームと呼ばれる、いわば宴会場のような場所が必ずあります。試合を終えた選手は、シャワーを浴びてチームのブレザーなどに着替え、そこで懇親会を行い、お互いをねぎらいます。

懇親会で意気投合した相手チームのメンバーと、そのまま飲みに行くことなどよくあることです。こうしたラグビーのノーサイド文化は世界共通で、私がパリ駐在時代に現地のラグビーチームに所属していた時も、相手チームと試合後に酒を酌み交わしました。

また、ラグビーの試合には、野球でいう一塁側は巨人、三塁側は阪神といった形での応援席がありません。両チームのファンはバラバラに着席します。そして、良いプレーには分け隔てなく拍手を送る一方、相手チームの失敗に拍手を送ることは良くない行為とみなされます。特定のチームではなく、あくまでもラグビーのファンという考えが背後にあります。ファンもノーサイドで、ファン同士のけんかなど聞いたことがありません。

さらに、ラグビーには国境もありません。日本代表になるために日本国籍は不要です。日本に3年以上住んでおり、他の国の代表になっていなければ問題ありません。このルールも世界共通です。ラグビープレーヤーには国籍に関してもノーサイドです。

他にこのようなスポーツはないと思います。もちろん、ラグビーに詳しくない人に対してもノーサイドですので、日本でのワールドカップを機会に、ぜひ一度、ラグビーを観戦してみてください。